2022（令和 4）年度　豊橋創造大学　外部評価及び本学の所見・対応等

■保健医療学部理学療法学科

外部評価者：愛知県理学療法士会学習局　卒前教育部部長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
（1）入学者の受け入れについて：適切である ①　入試の方法が複数あるため、受験生の幅が広がり選抜につながる。	理学療法学科ではアクティブ入試の見直しを行うとともに、各高校や受験生への周知をおこなっている。合わせて入学前学習の一環ともなる「理学療法士養成講座」を開催することで、オープンキャンパス参加者の増加を図っている。一方で、指定校推薦の対象校の再検討を行い、夏休み期間中に理学療法士教員による高校訪問を実施することで、高校教員や高校生への周知を進めている。
②　入試合格者に対して（年内の合格者）入学準備学習を実施されており、合格日から入学までの期間も学習する習慣が継続されている。	入学前学習については、学科開設当初より継続して実施している。また、今年度は入学準備学習の見直しを行い、その内容は初年次教育への継続性を考慮することとした。そこで、理学療法を学ぶための予備知識の習得と文章読解力、記述力の向上にポイントを置いている。
（2）　カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について：適切である ①　カリキュラムにおいて教育系の選択科目があるため、これらの科目を履修した卒業生が臨床経験年数を積むことでスムースに臨床実習指導者となることができるため効率よく指導者になることが出来る。	指定規則の改正に伴い、新規の専任教員の要件として大学または大学院において４単位以上の教育に関する単位の修得、または専任教員養成講習会の受講が求められている。そこで、教育に関する単位の修得のためカリキュラムを修正し、希望する学生は教育に関する４単位の受講が可能とした。またこれにより、本学学生は新カリキュラムにより教育に関して学修した本学科卒業生に臨床実習指導を受けることも可能となったことから、さらなる臨床実習教育の充実が図られている。

②　学習支援室、健康サポートセンターなど学ぶ機会のサポート、心の悩み等の相談窓口があるため、現代の大学生に必要な態勢がとられている。	学習支援室については、その活用に関して検討をしているところであるが、十分な活用が進んでいないのが現状である。学生支援のためのツールとして有効活用できるよう、今後さらに検討を進めていく。また、今後も健康・相談センターを活用し、安心・充実した学生生活を送れるよう支援していきたい。
（３）本学の教育活動全般について：適切である ①　特定研修施設と学科の連携により、臨床実習への緊張感が軽減される。	現在４つの特定研修施設を設置しており、臨床実習のみならず学内実習やスタッフ教育に関する連携が取れている。理学療法士は、多くの場合臨床施設において活動する業務であることから、臨床で勤務している理学療法士の指導を直接受けることができるのは、他に変え難い重要な教育の一部となっている。地域貢献活動も進めており、今後も継続的に連携を深めていきたい。
②　保護者会を実施することで個々の状況を保護者に把握してもらえること、就職および国家試験までのイメージしやすくなる。	入学生を卒業まで導くためには保護者の協力が不可欠である。そのためにも保護者会は重要であり、理学療法士を目指すために必要な一連の学習過程や学年毎の学事について理解を得るための場として積極的に活用している。また、こちらからの情報発信のみではなく、保護者からの率直な意見を集約する場としても重要であり、その意見をもとに学生教育、学科運営の改善へ活かしていきたい。

■保健医療学部看護学科

外部評価者：愛知県看護協会　訪問看護総合支援センター課長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
（1）入学者の受け入れについて 併願者の増加に伴い、実際の入学者数の推測が難しいとは思うが、看護学科を有する大学は東三河唯一である「地の利」を活かし、入学生確保に引き続き努力頂くと良いと思う。	名古屋方面への交通の便が悪く、豊橋への交通の便が比較的良い地域を検討し、進学校を中心に広報活動を開始している。具体的には、西尾方面、東海道沿線の静岡県西部地区である。また交通の便が悪く看護系大学が少ない三重県の尾鷲方面は、かえって三重からフェリーで田原経由が交通の便も良い。本学は尾鷲方面の生徒にとっては比較的便が良いと思われるため、そちらの進学校への広報活動も効果があるのではないかと考えている。もちろん東三河地区の高校へも積極的に広報活動を行っていく。
（2）カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について 特に 1 年次退学者が 13 名あることについては、要因の分析・検討を頂くとよい。	入学定員を 10 名増やし、90 名にしたことで学力の低い学生が多く入学するようになったと分析している。入試方法を検討しており、できるだけ学力の高い学生、および看護師への意欲がある学生に多く入学してもらうことで退学者の人数は減らすことができると考えている。また学力が伴わない学生については、本学他学部への編入、本学短大への特別入試制度などがあるため、勧めている。

■経営学部経営学科

外部評価者：豊橋商工会議所　ビジネスサポートセンター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
（1）入学者の受け入れについて：適切である 情報コミュニケーションにも重きをおき、就業への意識を高める等、現実社会への適応を図っている。今後も、さらに卒業生の社会での活躍(特に地元企業との密着性など)を強調・見える化などにより、入学者へのアプローチに期待したい。	カリキュラム構成として経営、会計ならびに情報コミュニケーションの 3 つの分野の基礎的な知識・技術の修得を図っている。特に情報コミュニケーション分野においては、低学年で開講する複数の必修科目でその習得を図っている。就業に対する意識を高めるため、早い段階から、キャリア形成という観点からプロジェクト実習やインターンシップを通じて実社会への理解を深めている。今後も様々な機会を通じて地域企業との連携を深め、地域社会に求められる人材の育成に力を注ぎたい。 卒業生の社会での活躍（特に地元企業との密着性など）の強調・見える化については、現在行っているキャリア教育・就職活動への卒業生参加のさらなる拡充、オープンキャンパス・高校訪問における進路説明、等を実施し充実を図っている。また、卒業生アンケートの実施・分析より、卒業後の状況把握に努め、彼らの要望を踏まえて入学者に対してフィードバックを行っている。
（2）カリキュラムの内容・学修方法・学修 支援・学修成果について：適切である 地元企業との連携強化を図っており地域産業発展の一助となっている。今後も、さらにプロジェクトへの参画やスタートアップなどの活動強化に期待したい。大学とは別になる(外部リソース)のかもしれないが他学部のように国家資格(中小企業診断士･社労士等)取得を目指すと、より社会適応力が高まると思う。	地元密着型大学として、地元企業との連携強化は重要だと考えている。プロジェクトの活動実績に対しては地域企業・行政機関から高い評価を頂き、長期継続するプロジェクトも増えている。一方、スタートアップの活動強化を念頭に、2022 年度は「地域文化産業研究」や「東三河発 SDGs 新商品/サービス企画開発」に関する 2 つの新たなプロジェクト活動を開始した。今後、プロジェクト活動の内容の見直しも進めながら、活動の強化に取り組んでいきたい。また、インターンシップへの参加学生が増加傾向にあることから、実習受入先企業を拡大しながらこの分野での連携強化も図りたい。 現在、会計系については日商簿記検定 3 級および 2 級（民間資格)、情報コミュニケーション系については IT パスポート（国家資格)、基本情報技術

	者試験（国家資格）、等について開講科目内で試験範囲に対応しており、学生にもガイダンスや授業を通して周知している。同様に、経営系についても資格取得を目標の一つにすることができれば、学生の学修意欲の向上にも繋がると考えられる。ご指摘頂いた中小企業診断士や社労士について、試験範囲に対応する科目の整理を行い学生に周知すると共に、不足している箇所については補習等で対応するような体制を整えたい。
（３）本学の教育活動全般について：適切である 少子化の中で、知名度の高い国立大学や私大との競合が激化する中で、地域産業の高いポテンシャルを十分に理解し、地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。今後も、さらに地元企業と地域産業の発展・振興につながる地元密着型の大学としての活動に期待したい。	今後も地域社会・企業のニーズを把握し、適切にカリキュラムの見直し（基礎力および専門力の見直し・強化）を進めながら、合わせてインターンシップやプロジェクト活動、卒業研究とこれらの発表の機会を通して連携を深めるとともに、さらには各種講座の開催を行うなど地元企業と連携を図るなど、地元密着型の大学として地域社会の期待に応えらえるよう取り組んでいきたい。

■大学院健康科学研究科

外部評価機関（外部評価者）：豊橋市民病院及び豊橋市保健所における本学が委嘱した職員

※大学院健康科学研究科の外部評価を実施する「豊橋創造大学大学院健康科学研究科の教育活動に関する協議会」内で実施

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
（１）教育活動（教育課程の編成等）に関して ①毎年コメントしているが、昼夜開講制を堅持している姿勢には教員の努力を含め評価できる。 ②他大学（豊橋技術科学大学等）との単位認定制度はあるが、企業との連携に関する記述は見当たらない。地場産業・行政・臨床病院との連携をすすめ実践的・専門的プログラムを作成する具体的な動きが必要である。	①今後も社会人にとって学びやすい環境を堅持していきたい。 ②研究科としてどのように取り組みができるか、検討していきたい。
（２）学生募集（入学者の受け入れ）に関して ①学生確保のための様々な取組は行われているが、定員には達していない。学部学生のうちから普段の講義、セミナーの中で、全体としてあるいは個別に大学院の魅力をアピールし、積極的にリクルートできているか。 ②昼夜開講制など社会人の就学支援は充実しているが、研究科の定員割れが続いている。修了生が実際に学業と就業をどのように両立しているかがホームページやパンフレットなどに記載されていると、就業しながら修学することをイメージしやすいと考える。 ③定員割れが継続しており、学部生からの入学推進を図る必要があるのではないか。そのためにも学部生に進学する意義が感じられるカリキュラム作成が必要だと考える。基礎科目だけではなく臨床家育成という立場で、臨床病院とコラボレーションしたカリキュラム作成を考えてみてはどうか。	① 理学療法学科では、学部生に向けて大学院接続科目を 3 科目設定しているものの、大学院の魅力が十分に伝わっているとは言えない。学部生向けのアピール方法を検討していきたい。 ② 大学院生の生活パターンを Website などに例示していきたい。 ③ 理学療法学科では、学部生に向けて大学院接続科目を 3 科目設定している。今後のカリキュラム改訂に合わせて、大学院への進学を促すようなカリキュラム導入を学部学科と協議して検討していきたい。

（３）教育活動全般について ① 「大学院にいくと何が身につくの？」といったシンプルな問いに答えられているか再確認すべきである。多様化する修士課程修了者のキャリアパスに応じた活躍状況の可視化を行うことで、知のプロフェッショナルに対する啓蒙を図るべきである。 ② 学内だけでなく積極的に学外とのコラボレーションを進めてみてはいかがか。 ③ 長期履修生制度などの制度は良好に機能していそうだが、コロナ禍の時代に遠隔授業に対応した設備投資が必要である。具体的には大学院内のインターネット環境の強化（動画コンテンツを使った授業でも停止しない程度）、図書の配送など図書館遠隔サービスの充実、電子図書数の充実などを考えてはいかがか。	① 本研究科専任教員によるセミナー講座を通して、研究科におけるキャリア形成を説明すると共に、大学院で習得できる内容を明確に伝えるべく検討していきたい。 ② 積極的に検討していきたい。 ③ 研究科としては、さらなる設備に充実を実現すべく、大学当局に働きかけていきたい。
（４）その他 ①プログラム修了後の修了者の状況（就職状況や修得した能力など）について自己点検・評価を行い、結果などを公表しているが、生きた声が反映されていない。新規入学者獲得のためにも更なる努力を期待する。 ②海外留学支援制度の利用実績が近年見当たらない。教員の質向上や海外の大学院との協力関係構築のためにも再開すべき。Web 等を利用した海外施設とのオンラインによる共同研究等も支援制度の範疇に含めてはいかがか。	①在学生を含めて修了生への聞き取り調査などをすることで、大学院への二―ズをより詳細に把握すべき努力していきたい。 ②海外留学支援制度を含めて、教員の質向上や教育研究協力体制の構築に向けて、大学側とも協議して検討していきたい。